

ごあいさつ



皆さまには、平素より私ども足利小山信用金庫に対しまして格別のご愛顧を賜り、心より厚くお礼申し上げます。

本年も当金庫の経営方針や事業内容、業績等へのご理解を一層深めていただきたく、ディスクロージャー誌「足利小山信用金庫の現況2017」を作成いたしましたので、ご高覧いただければ幸甚に存じます。

平成28年度のわが国経済は、大胆かつ機動的な財政金融政策ならびに民間投資を喚起する成長戦略等の推進により、雇用・所得環境の改善が進み、また、米国新政権発足による政策への期待感から、円安・株高が進行し、大企業を中心に緩やかな景気の回復基調がみられました。

しかしながら、英国のEU離脱や中国など新興国の経済減速等の懸念材料があり、先行きの不透明感は否めない状況であります。

一方、金融業界においては、昨年9月に、金融庁から金融仲介機能の発揮状況を客観的に評価できる指標として「金融仲介機能のベンチマーク」の導入が公表され、金融仲介機能を十分に発揮していくことを強く求められています。

このような経済・金融環境のなか、当金庫は、「トップライン（業務粗利益）の収益拡大」を第一の経営課題に掲げ、期初より経営体力の充実に意欲的に取り組んでまいりました。

今後の経営環境を展望いたしますと、政府による経済政策の推進等により、雇用・所得環境が引き続き改善し、経済の好循環が進展する中で、民需を中心とした景気回復が見込まれるものと思われまます。しかしながら、地域経済においては、少子高齢化や人口減少といった構造的な問題を抱えています。

平成29年度は、3カ年の中期経営計画の最終年度となります。目指すべき金庫像である、「信用金庫の独自性・特性を活かしながら、お客さまや地域の成長・発展等に資する取組みを推進していくことにより信用金庫の存在意義を高め、地域社会において必要とされる金融機関であり続ける。」の実現に向けて、役職員が一丸となり業務に取り組んでまいり所存でございます。

今後とも、より一層のご支援、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

平成29年6月

理事長

富田隆